

移民が与える経済的影響と移民動向分析 ～ブラジルを事例に～

東京外国語大学
フランス語専攻 4年
飯沼 妙佳

導入

- 日本に在住する外国人は増加している
→日本に対する影響が拡大しているはず！
- なぜブラジルを対象とするのか？
- 1 ブラジルと日本の歴史的背景
日系人として単純労働に従事することが可能である特殊なケース
- 2 人数と送金額の大きさから想定される経済的影響の大きさ
- 3 大きな経済成長を遂げている新興国ブラジルの注目度の高さ(BRICs)

日本に対する経済的影響

$$\text{UR} = a_0 - a_1 \text{BRA} - a_2 \text{NIPC} - a_3 \text{YPR} + a_4 \text{PR} + a_5 \text{DR} + \mu$$

- UR: 完全失業率 BRA: ブラジル人登録者数
- NIPC: 1人当たりの国民所得 YPR: 若年人口比率
- PR: パート求人比率 DR: 離婚率

重回帰分析の結果・・・

- BRA: ブラジル人登録者数

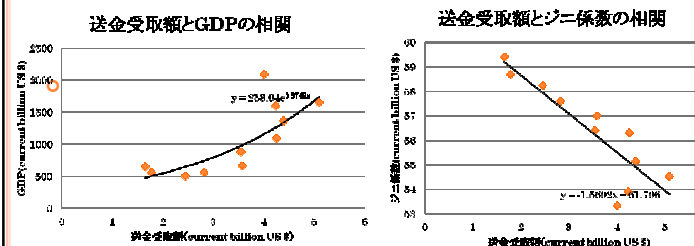
係数がマイナスになっており、相関関係は有意

ブラジル人登録者数と完全失業率は負の相関

t値が-2以下、P値も0.05以下となり、信頼性の高い結果

➡ ブラジル人労働者が増加すると完全失業率が下がる

ブラジルに対する経済的影響



送金受取額が増加→GDP増加(経済成長)
→ジニ係数減少(格差是正)

↓

ブラジル人移民の送金はブラジル本国に
プラスの影響を与える

移民動向分析

- $Y=I-T-L+A+P+F$
 - I: 移住先と故国での所得差 T: 旅費ならびに入職コスト
 - L: 移住先での生活費 P: 政治・治安上の理由
 - A: 技術・技能・ノウハウなどの習得、帰国してかそれらを利用する可能性、社会的地位の向上、所得増加の可能性
 - F: すでに移住している家族・親戚と合流するという動機
-
- $BRA = -GDPPC + ICP + UT - AF + PP$
 - BRA: ブラジル人登録者数 GDPPC: GDP per capita
 - ICP: インフレ率 UT: 失業率
 - AF: 移住にかかる航空運賃 PP: 殺人事件発生件数

移民動向分析

重回帰分析結果

重回帰統計		自由度	変動	分散	観測された分散比	有意 F	
重相関 R	0.727662						
重決定 R2	0.529492	回帰	3	4.05E+09	1.35E+09	2.625849	0.132182
補正 R2	0.327846	残差	7	3.6E+09	5.14E+08		
標準誤差	22677.94	合計	10	7.65E+09			
観測数	11						

	係数	標準誤差	t	P-値	下限 95%	上限 95%	下限 95.0%	上限 95.0%
切片	675229.3	184244.2	3.66486	0.008019	239560.9	1110898	239560.9	1110898
GDPPC	-20.1397	7.543026	-2.66998	0.032001	-37.9761	-2.30328	-37.9761	-2.30328
UT	-22856.2	19065.69	-1.19881	0.269604	-67939.4	22226.97	-67939.4	22226.97
PP	-10.576	5.464039	-1.93556	0.094148	-23.4964	2.34441	-23.4964	2.34441

移民の増加要素①GDP per capitaの減少②完全失業率の低下③殺人事件発生件数の減少

政策提言

- ブラジル人登録者
日本にもブラジルにも**プラス**の影響を与える

移民を増やすためには...

- 1 ブラジルの失業率の低下
- 2 ブラジルの治安改善(殺人事件発生件数の減少)

(3 GDP per capita の減少)...ブラジルにマイナスなので提言する政策から除外